

内 科

副院長 北 和彦 診療局長 齋藤 博文
統括部長 行木 瑞雄

1. 令和元年度の目標

総合内科と救急科の連携開始：救急医療・地域医療への貢献と初期研修の充実
専門診療の継続：消化器、循環器、糖尿病内分泌の専門診療の提供

2. 診療体制

外来診療は内科新患、消化器、循環器は月から金の週 5 日、糖尿病は火水木金の週 4 日、内分泌は火曜、神経内科は水曜、呼吸器内科は月木の週 2 日、外来診療を行った。神経内科と呼吸器内科は千葉大から非常勤医を派遣して頂いた。

入院診療と日当直は常勤スタッフ 16 名で分担した。日当直では千葉市夜間内科系救急 2 次当直を月 4 回程度、ならびに休日 2 次日直を月 1 回担当した。

3. スタッフ

| | | |
|-----------|--------|----------------|
| 副院長 | 北 和彦 | (消化器) |
| 診療局長 | 齋藤 博文 | (消化器・総合内科) |
| 内科統括部長 | 行木 瑞雄 | (循環器) |
| 消化器内科統括部長 | 野本 裕正 | (消化器) |
| 循環器内科統括部長 | 宮原 啓史 | (循環器) |
| 部長 | 長谷川 敦史 | (循環器) |
| 部長 | 太和田 勝之 | (消化器) |
| 部長 | 間山 貴文 | (内分泌・総合内科) |
| 主任医長 | 川名 秀俊 | (糖尿病・総合内科・救急科) |
| 医長 | 薄井 正俊 | (消化器・総合内科) |
| 医長 | 堀江 佐和子 | (循環器・総合内科) |
| 医長 | 加藤 真優 | (総合内科・救急科) |
| 医長 | 高城 秀幸 | (消化器) |
| 医師 | 田澤 真一 | (消化器) |

平成 31 年 3 月で渡邊、北川、大野医師が退職、平成 31 年 4 月加藤医師が入職したため常勤医 14 名（-2 名）の体制となった。

4. 診療実績

年間の新規入院数は内科全体で 2181 名（月平均 181.6 名）であった。部門別では総合内科 585 名（同 48.8 名）、消化器内科 1245 名（同 103.8 名）、循環器内科 351 名（同 29.3 名）であった。救急患者搬送件数は内科全体で 1124 件（月平均 9.37 件）であった。

① 内視鏡統計

| | | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|----------|----------|----------|-------|
| 上部消化管内視鏡 | | 1595 | 1624 |
| | ポリペク/EMR | 8 | 9 |
| | ESD | 40 | 51 |
| | EVL/EIS | 12 | 15 |
| | 止血術 | 31 | 37 |
| | PEG | 10 | 19 |
| 下部消化管内視鏡 | | 1609 | 1573 |
| | ポリペク/EMR | 645 | 598 |
| | ESD | 34 | 26 |
| 胆膵内視鏡 | | | |
| | ERCP | 336 | 329 |
| | (EST) | 78 | 72 |
| | EUS | 104 | 107 |
| | (FNA 関連) | 7 | 8 |
| 気管支鏡 | | 0 | 0 |
| 合計 | | 4424 | 4468 |

② カテーテル統計

| | | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|------|-----------|----------|-------|
| 心臓 | | | |
| | CAG | 283 | 235 |
| | PCI | 110 | 72 |
| 末梢血管 | | | |
| | PTA | 4 | 10 |
| | IVC フィルター | 4 | 3 |
| 腹部 | | | |
| | TACE | 12 | 15 |

③ 手術統計

| | | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|------------|--------|----------|-------|
| ペースメーカー手術 | | | |
| | 新規植込み術 | 21 | 16 |
| | 交換術 | 19 | 14 |
| 植え込み型心電モニタ | | 1 | 0 |

5. 令和元年度の総括

総合内科は渡邊が退職したが、加藤が加わり昨年同様 6 名（齋藤、間山、川名、薄井、堀江、加藤）で初期研修医とともに診療を行った。今年度より新規に開設した救急科からの入院は基本的に総合内科が受け入れて入院診療を担当した。その結果、総合内科入院は、平成 30 年度の 449 名から令和元年度は 585 名と大きく増加し、疾患の幅も広がった。平日は毎朝診療開始前にミーティングを行い、毎週木曜に研修医のカンファレンスを行って研修医の指導を行った。糖尿病代謝内分泌内科は渡邊医師が退職し間山、川名の 2 名となった。金曜の糖尿病外来と木曜の妊娠糖尿病外来は千葉大から非常勤医により継続して頂いた。神経内科は昨年同様水曜に千葉大から非常勤医を派遣して頂き外来診療を継続した。呼吸器内科は月曜と木曜に千葉大から非常勤医を派遣して頂き、外来診療を再開することが出来た。

消化器内科は、後期研修の大野が退職し 1 名減、計 7 名となった。朝回診および週 2 回の早朝カンファレンスを行ない患者の検査や治療方針などを話し合った。スタッフは肝臓領域では C 型肝炎に対する DAAs（直接作用型抗ウイルス薬）や B 型肝炎に対する核酸アナログを積極的に行うとともに、肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法や肝動脈化学塞栓療法も引き続き同様に行ったが、一時期と比べ症例は減少傾向である。消化管領域では、上部消化管検査に比べて下部消化管検査の割合が多いのが当院の特徴である。高城の赴任後、上部・下部の ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）は年間 70 例以上、大腸ポリープに対する内視鏡治療も年間 600 例以上を維持している。胆膵領域でも齋藤、太和田を中心に対象症例数を増やし ERCP 関連手技 300 例前後、EUS（超音波内視鏡）関連手技も 100 例を超えている。

循環器内科は行木、宮原、長谷川、堀江の 4 名で診療を行った。常勤医の減少によりカテーテルインターベンション治療件数が減少したが令和 2 年度は常勤医の増員予定であり、従来以上に積極的に治療を行っていく予定である。平日は毎朝病棟回診を行い、週 2 回早朝に心カテの読影カンファレンスを行った。専門外来として水曜に千葉大の非常勤医に不整脈外来を継続して頂き、火曜の丹羽公一郎先生（聖路加国際病院）先天性心疾患外来も引き続き診療を行った。

6. 今後の目標

新病院に向けて総合内科機能の充実と専門診療の強化に努め、地域医療に貢献できるよう進めたいと思います。